



## BRI 経営塾プログラム

～加速するグローバル展開とマネジメント～

2017年10月27日(金)～  
2018年2月20日(火)  
《全5回開催》

合宿研究会：1回（10月・熱海・ホテルニューアカオ）

都内会場：2回（12月・アイビーホール、  
2018年2月・アイビーホール）

現地視察：東京ガス(株) 神奈川・横浜市・扇島工場LNG(液化天然ガス)タンク  
講演拝聴

### 第15期「BRI経営塾」開講にあたって



一般社団法人 企業研究会  
会長

小 枝 至

近年、日本企業においては、高いレベルで形成されている従来事業を、産業高度化に向かうアジアを始め、経済発展が目覚ましい国・地域に持ち込んでいく事が不可欠であります。

本プログラムでは、加速するグローバル展開とマネジメントに焦点を当て、本年も引き続き、企業経営の変革を担う次世代リーダーのために、第15期「BRI経営塾」を開催いたします。

新しい時代に求められるグローバルコーポレートガバナンスとリーダーのあるべき姿、日本が進めるグローバル化の今後のシナリオ、グローバル市場分析研究と各企業におけるグローバル・イノベーション経営の推進ならびにグローバル経済の最新動向およびイノベーション実践哲学推進の経営者からのご講演等々、次世代経営トップ層を担う人材に最適なプログラムであります。企業経営の変革を志す部長、部門長、執行役員クラス層のご参加を強く推奨する次第です。

#### 〈目的〉

次の5年間の諸課題を推測し、企業経営の創造と革新に向け、取締役並びに執行役員に求められるコーポレートガバナンスのあり方、トップマネジメントの改革力、創造力、リーダーシップについて最新事例を通じて研究する。

#### 〈主な対象者〉

部長、本部長並びに取締役を中心に20名程度  
(※後半ページに詳細ご案内)

#### 〈指導体制〉

◆塾コーディネーター 油井 直次氏  
元アクセンチュア(株)シニアパートナー  
(元)一橋大学大学院 国際企業戦略研究科非常勤講師  
(前)(公財)日本英語検定協会会長

#### 〈期間〉

2017年10月27日(金)～2018年2月20日(火)  
合宿1回(2日間)、例会2日間、施設見学1日、  
計5日間／5カ月

#### 〈会場〉

神奈川：熱海・ホテルニューアカオ(合宿研究会)  
：東京ガス(株) 横浜市・扇島工場  
LNG(液化天然ガス)タンク(施設見学)  
東 京：表参道・アイビーホール(本例会会場)



元アクセンチュア(株)シニアパートナー  
油 井 直 次 氏

1972年国際基督教大学教養学部国際関係学科卒業、同年グローバルコンサルティング会社であるアクセンチュア社に入社、1987年グローバルパートナーに就任。2001年アクセンチュア社退職、一橋大学大学院国際企業戦略研究科非常勤講師、みらかホールディングス社外取締役監査委員長。公益財団法人日本英語検定協会会長を経て、現在は高校生英語ディベート全国大会を推進。グローバルリーダーの育成にあたる。

## ◆ 本チャート

### セッションⅠ〈17.10.27～28〉

＜熱海・ホテルニューアカオ＞

(合宿研究会(1))  
オリエンテーション

- ① 世界経済の長期展望と日本の経済成長・財政危機
- ② 中国経済の行方 ～中長期的な構造問題を中心に～

(合宿研究会(2))

「総合討議」

- ① 2027年日本の予測
- ② ルールメーカーとしてのヨーロッパ

### セッションⅡ〈17.12.12〉

＜表参道・アイビーホール＞

「グローバル・イノベーション経営の推進」

- ① 「富士フィルムの第二の創業」  
～危機からの脱出とグローバル事業拡大～
- ② 「IBM Watson 最新動向と事例」  
～ Watson x Marketing への応用～

### セッションⅢ〈18.1.26〉

＜施設見学＞

東京ガス(株) 神奈川・横浜市・扇島工場LNG(液化天然ガス)タンク

＜特別講演＞

「エネルギー全面自由化における東京ガスの事業展開」

トップマネジメントの  
見識と実行力の研鑽

### セッションⅣ・Ⅴ〈18.2.20〉

※(当会役員例会との合同会合)

＜表参道・アイビーホール＞

Ⅳ. グローバル経済の最新動向(役員例会との合同会合)

- ① 「閉じてゆく帝国と逆説の21世紀経済」

Ⅴ. 「修了講演」

- ② 「ヤマト運輸の成長戦略」～地域で一番身近で、一番愛される企業を目指して～  
修了立食懇親会 修了式及び交流会

## ◆ 講師のプロフィール



齋藤 尚登 氏

(株)大和総研 主席研究員 経済調査部担当部長

1990年山一証券経済研究所に入社。1994年8月～1997年12月香港駐在。1998年大和総研に入社。2003年3月～2010年6月北京駐在。7年3ヵ月にわたる北京滞在中は、現地エコノミスト・ストラテジストの交流を積極的に行い、中国経済と株式市場制度などについて情報を発信。帰国後、主任研究員を経て2015年より主席研究員、経済調査部担当部長。



樋口 正也 氏

日本アイ・ビー・エム(株)

Watson カスタマー・エンゲージメント事業部 事業部長

新潟県出身。京都大学工学部卒。日本IBM1993年入社。大和研究所、本社等にてソフトウェア関連事業、クラウドコンピューティング事業の立ち上げを行い、2009～2010年に米国ニューヨーク本社に赴任。2011年の震災直後より東北の復興支援、スマートシティ事業などにに関わり、2012年より東北支社長、2013年北海道・東北支社長、パートナー・アライアンス事業部ソリューション事業部長、Watson事業部 EcoSystem担当 事業部長、コグニティブソリューション事業 常務補佐を経て、現職。

独立行政法人 経済産業研究所 ご依頼中

※ご参加者には後日、ご連絡を申し上げます。



後藤 孝浩 氏

富士フィルム(株)

R&D 統括本部先端コア技術研究部長 兼 経営企画本部イノベーション戦略企画部長

1987年名古屋大学大学院 工学研究科修了後、同年富士写真フィルム(株)入社。1999年足柄研究所 主任研究員、2004年R&D統括本部 材料研究本部 印刷材料研究所 研究部長、2008年R&D統括本部 エレクトロニクスマテリアルズ研究所 所長、2015年経営企画本部 イノベーション戦略企画部 次長、2017年6月R&D統括本部先端コア技術研究部長兼経営企画本部イノベーション戦略企画部長現在に至る。



水野 和生 氏

法政大学 法学部 教授

元 三菱UFJモルガンスタンレー証券チーフエコノミスト  
元 内閣府大臣官房審議官

1977年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。1980年八千代証券入社、調査部配属。1981年国際証券(八千代証券、光亜証券、野村投信販売、3社合併)。1990年国際証券執行役員就任(経済調査担当)。2002年三菱証券(国際証券、東京三菱証券、東京三菱パースナル証券、一成証券、4社合併)。2002年三菱証券、理事チーフエコノミスト就任。2005年三菱UFJ証券(三菱証券、UFJつばき証券、合併)、同年三菱UFJ証券、参与チーフエコノミスト就任。2010年三菱UFJモルガン・スタンレー証券(三菱UFJ証券にモルガン・スタンレー証券インベストメント・バンキング部門が合流)。同年三菱UFJモルガン・スタンレー証券、参与チーフエコノミスト就任、同年同社退社、同年内閣府大臣官房審議官(経済財政分析担当)。2011年内閣官房内閣審議官(国家戦略室)。2012年内閣官房内閣審議官(国家戦略室)、退官。2013年～2017年国際投資顧問株式会社 顧問(非常勤)、平成27年7月1日合併により三菱UFJ国際投資顧問株式会社客員エコノミスト。2013年～2016年日本大学国際関係学部 教授。2016年法政大学法学部 教授。2017年7月1日～(株)SBI証券金融法人部顧問。

東京ガス(株) 扇島工場 管理責任者にご依頼中

※ご参加者には後日、ご連絡を申し上げます。



栗栖 利蔵 氏

ヤマト運輸(株) 代表取締役専務執行役員

1983年横浜市立大学商学部卒業。同年ヤマト運輸(株)入社。1999年経理部長。2002年財務部長。2005年商号変更により、ヤマトホールディングス(株)財務戦略・IR戦略担当シニアマネージャー。2007年執行役員財務戦略・IR戦略担当 兼 ヤマトマネージメントサービス(株)代表取締役社長。2011年執行役員財務戦略・IR戦略・海外統括・CSR担当。2012年執行役員 兼 ヤマトフィナンシャル(株)代表取締役社長。2017年ヤマト運輸(株)代表取締役専務執行役員 現在に至る。

## ◆セッションI 合宿研究会(全タイムスケジュール)

- (1) 世界経済の長期展望 (中国／EUの現状・課題と将来性の考察)  
 (2) 日本の財政危機対応シミュレーション (3) 塾生による「2027年日本の予測」グループ討議の発表

日程	時間	テーマ	講師名
10月27日(金)～28日(土) (合宿研究会)	10/27(金) 10:30～	<b>合宿研究会の進め方</b> (※詳細内容は次ページをご参照下さい。) 本セッションでは、日本を取り巻く世界の動き、更には中国についてはシンクタンク主席研究員から、実例を踏まえたご体験並びに将来性について貴重な情報提供を頂く。その後、各企業にとって、低成長と日本の財政危機への対応について、参加メンバーが自由にかつ、突込んだ討議をする。 <b>(1) 世界経済の長期展望と日本の長期展望</b> 《10/27タイム・スケジュール》 〈10:20〉現地集合 〈10:30～11:30〉オリエンテーション 〈12:30～15:00〉① 世界経済の長期展望と日本の経済成長・財政危機 <b>油井 直次 氏</b> 〈15:10～17:10〉② 中国経済の行方 ～中長期的な構造問題を中心に～ (株)大和総研 主席研究員 経済調査部担当部長 <b>齋藤 尚登 氏</b> 〈17:15～18:15〉グループ討議「2027年日本の予測」 〈18:30～20:00〉夕食 〈20:15～22:00〉懇親会	
	22:00		
	～10/28(土) 8:45～	<b>(2) 世界経済の長期展望と日本再生シミュレーション</b> 《10/28タイム・スケジュール》 〈8:45～10:00〉① 2027年日本の予測 <b>油井 直次 氏</b> 〈10:10～12:10〉③ ルールメーカーとしてのヨーロッパ 独立法人 経済産業研究所 ご依頼中 〈12:20～13:20〉昼食懇親会	※ご講演時間については 10/27・28内で、時間シフトの可能性もあります。
	13:20		

## ◆セッションI 合宿研究会(1) 日本の成長課題

日程	時間	テーマ	講師名
10月27日(金) (合宿研究会初日)	10:30～11:30 (11:30～12:30) 昼食 12:30～15:00	<b>オリエンテーション</b> <b>① 「世界経済の長期展望と日本の経済成長・財政危機」</b> <b>日本の財政危機シミュレーション ～企業へのインパクトと対応策</b> 1. 成長を続ける世界、巨大市場共同体化する世界、取り残される日本 2. 巨額の余剰資金が世界へ、過剰流動性を制する国が世界を制する 3. 米国の高い成長力と競争力 4. EUの財政危機と分裂のリスク 5. 中国の低下する成長力と急拡大する債務リスク 6. 日本の低成長と巨額の債務リスク 7. 日本の財政危機シミュレーション 8. 日本の改革実行力評価 日本が抱える根本的な問題は、国・地方自治体が毎年約30兆円にも上る借金をして、やっとプラス成長の日本経済と、隠れた公的機関の不良債権も含め120兆円とも言われる増え続ける公的債務である。2010年代、いよいよ本格的な少子・高齢化と人口減少、増税、避けられない年金給付カット等の時代に突入し、日本経済は低インフレ、低成長が続く可能性が高い。残念ながら、有効にして実行可能な国家的日本再生策は未だに見つかっていない。アベノミックスは不発に終わり、経営者は、この様な厳しい現状と近い将来起こりうる財政危機を直視し、より一層独占・寡占の進むグローバルマーケットへの更なる挑戦と企業としての戦略的な対応を考えておく必要がある。	元アクセンチュア(株) シニアパートナー <b>油井 直次 氏</b>
	(※次頁へ続く)		

## ◆セッションⅠ 合宿研究会(1) 中国市場分析研究

日程	時間	テーマ	講師名
10月27日(金)  (合宿研究会初日)	15:10~17:10	<b>②「中国経済の行方」</b> ～中長期的な構造問題を中心に～ 1. 長期ダウントレンドのさなかにある中国経済 2. サプライサイドの構造改革 3. ニューノーマルと三期叠加（噴出する諸問題） 4. 36年間続いた一人っ子政策の弊害 5. 急増する債務、過剰生産能力、住宅バブルの行方など  中国経済は長期ダウントレンドのさなかにある。しかも、2008年11月に発動された4兆元の景気対策は、債務問題や過剰生産能力問題を深刻化させた。さらには、36年間続いた一人っ子政策は少子高齢化を加速させ、中国経済・社会に様々な弊害をもたらそうとしている。中国は2016年に「二人っ子政策」に転換したが、その効果は極めて限定的である。 こうした中で、中国政府はサプライサイドの構造改革を打ち出し、経済諸問題の改善に取り組み始めた。サプライサイドの構造改革は、①過剰生産能力の解消、②過剰不動産在庫の削減、③デレバレッジ（金融リスクの防止、債務比率の引き下げ）、④企業コストの引き下げ、そして⑤不足の補充（脱貧困、イノベーション重視など）の5本柱からなる。この構造改革の現状と成果、そしてどのような問題点が残っているのか、について解説する。 中国経済はどうなるのか?第15期「BRI経営塾」の合宿研究会では、中国が抱える様々な問題やリスクを把握し、それを冷静に評価すべく、皆さんと一緒に考えていきたい。	
	17:15~18:15	グループ討議「2027年日本の予測」	(株)大和総研 主席研究員 経済調査部担当部長 齋藤 尚登 氏
	18:30~22:00	夕食および懇親会	

## ◆セッションⅠ 合宿研究会(2) 日本の再生シミュレーション/EU市場分析研究

日程	時間	テーマ	講師名
10月28日(土)  (合宿研究会2日目)	8:45~10:00	<b>《総合討議》</b> <b>「2027年日本の予測発表」</b> ～グループ討議～ コーディネーター：元アクセンチュア(株) シニアパートナー 油井 直次 氏	
	10:10~12:10	<b>③グローバル市場分析研究 EU</b> <b>「ルールメーカーとしてのヨーロッパ」</b> EURLの世界的影響力に産業界の関心が高まっています。環境規制などEUの影響力の源泉はどこにあるのか。日本企業はどのように対応すべきなのか、などの点の考察を通し、理解しづらいEUの本質を浮かび上げさせます。また、昨年決定した英国EU離脱についても、所感を聞かせて頂きます。 独立行政法人 経済産業研究所 依頼中 ※〔ご講演時間については10/27・28内で、時間シフトの可能性もあります。〕	
	12:20~13:30	昼食懇親会	

## ◆セッションⅡ 直近2年／第13～第14期修了講演講師一覧

第13期 (2016年2月26日)



「日本たばこ産業のグローバルに向けた取り組み」について語る同社新貝副社長

第14期 (2017年2月27日)



「富士フィルムにおけるイノベーションの推進」について語る同社戸田副社長

集合写真





修了者の方々（※途中退席者を除く）

## ◆セッションII グローバル・イノベーション経営の推進

日程	時間	テーマ	講師名
12月12日(火)	13:00~15:00	<b>① 「富士フィルムの第二の創業」</b> ～危機からの脱出とグローバル事業拡大～ 1. グローバルの定義 2. 危機からの脱出ヒストリー 3. 新規事業戦略 4. R&Dの拡充 5. M&Aの推進と新興国戦略 6. グローバル市場拡大プロセス事例 7. グローバル人材の育成 8. 今後の課題 ----- 2000年代、富士フィルムは本業消失の危機に陥ったが、技術の棚卸しを行い、新たな成長戦略と重点事業を明確にした。それを達成するために、次々とR&D拡充、M&Aを行い、第二の創業を加速させ、R&Dや事業の拠点をグローバルに展開した。そのヒストリーを事例を交えながら説明し、聴衆の方々と相互に意見交換することで、グローバル展開を効率よく行なう処方を見出せば幸いです。	富士フィルム(株) R&D統括本部先端コア技術研究部長兼経営企画本部イノベーション戦略企画部長 後藤 孝浩 氏
	15:10~17:10	<b>② 「IBM Watson最新動向と事例」</b> ～ Watson x Marketingへの応用～ 1. IBM Watsonの概要と最新動向 2. Watsonを活用した国内外でのお客様の事例 3. Watson x Marketingへの応用 ----- IBM Watsonは、どのような形態の非構造化データも扱うことができ、理解・学習し、仮説を立てて推論する、新時代を切りひらくコンピューターとしてすでに実用段階に入っています。企業での導入と並行して各社のユースケースも多様化してきています。国内外での最新事例、さらにWatsonの発展した活用としてDigital MarketingやECと合わせて活用したケースなど最新の動向をお伝えします。	日本アイビーエム(株) Watson カスタマー・エンゲージメント事業部 事業部長 樋口 正也 氏
	17:15~18:15 全体討議		
	18:15~19:15 懇親会		

## ◆セッションIII 視察と講演拝聴

日程	時間	テーマ	講師名
1月26日(金)	13:30~17:00 (神奈川・横浜市) 東京ガス(株) 扇島工場LNG (液化天然ガス) タンク	<b>「施設見学」 東京ガス(株)横浜市・扇島・LNG(液化天然ガス)タンク</b> 横浜・鶴見の「扇島LNG基地」は、都市ガス製造4基地のうちのひとつです。基地の隣には、クリーンエネルギーを利用し、省エネルギー性に優れたガスタービンコンバインドサイクルで電力を供給する火力発電所「扇島パワー」もあります。 今回は基地の各施設を見学いただき、首都圏におけるエネルギーの安定供給に取り組む様子をご覧いただきます。 ※「当日は、先方様のスケジュールにより一部」 「変更もありえます事ご了承下さい。」 <b>「見学予定場所」</b> 1. LNG 冷熱体験 メタンを主成分とする天然ガスを-162℃まで冷却し、液化したLNG(液化天然ガス/Liquefied Natural Gas)を使った冷熱実験を行います。 2. シーバース(海上栈橋)の遠望見学 3. タンクヤード見学 完全埋設式・覆土式のタンクを見学します。 4. 気化器見学 冷却され液化されたLNGを海水で気化します。 5. コントロールセンター見学 ガス製造の集中オペレーションセンターの見学を行います。 6. 扇島パワー見学 電力発電所構内を見学いたします。	 
	(18:00~19:30) 夕食・懇親会	<b>特別講演</b> <b>「エネルギー全面自由化における東京ガスの事業展開」</b> 東京ガス(株) 扇島工場 管理責任者にご依頼中 ----- <タイム・スケジュール(予定)> <12:30> JR京浜東北線 鶴見駅集合 専用バスで移動 <13:15> 東京ガス(株)扇島・LNG(液化天然ガス)タンク管理棟集合 <13:30~15:00> 東京ガス(株)扇島・LNG(液化天然ガス)タンク周辺施設見学 <15:00~16:30> 東京ガス(株) ご講演 <16:30~17:00> 全体討議 <17:00~17:45> JR京浜東北線 鶴見駅迄 専用バスで移動 <18:00~19:30> 懇親会	

(於 東京ガス(株)扇島工場LNG(液化天然ガス)タンク)

◆セッションⅣ グローバル経済の最新動向 / セッションⅤ 修了講演 ※(当会役員例会との合同会合)

日程	時間	テーマ	講師名
2月20日(火)  (於 東京・表参道・アイビーホール)	14:00~15:30	<b>Ⅳ. グローバル経済の最新動向</b> <b>① 「閉じてゆく帝国と逆説の21世紀経済」</b> 1. ゼロ金利が意味するものとは・・・過剰な生産力 2. 「蒐集」の歴史の終わり・・・「歴史の危機」 3. ケインズの資本vs.マルクスの資本 4. 近代 (=合理性の時代)・・・アウトプット/インプット比率の崩壊 5. 新中世主義・・・「よりゆっくり、より近く、より寛容に」 6. 個人が先の社会から社会が先の社会へ・・・「無限空間」から「有限空間」へ 7. 歪んだ資産の是正・・・効率から正義(公正)へ 8. 「閉じた帝国」とは・・・自然エネルギーと世界秩序な時代 ----- 近代とは合理性基準に則って「経済成長があらゆる問題を解決する時代」といえる。しかし、21世紀に入って「骨太の方針」(小泉政権)という名の成長戦略、その後継としての「アベノミクス」とおよそ20年かけて実質GDP成長2.0%を目指してきたが、現実には年0.8%成長にとどまっており、物価も上がらない。成長政策が失敗するのは、近代社会を成り立たせていた成長の基盤が消滅しているからである。売上を増やすフロンティアはもはや残されておらず、仕入れは高価な化石燃料に依存せざるをえない状況下で、売上と仕入れの差である付加価値(GDP)を増やそうとするから、様々な矛盾が噴出する。21世紀には発想の大転換が必要である。	法政大学 法学部 教授 <b>水野 和夫 氏</b> (元 三菱UFJモルガンスタンレー証券チーフエコノミスト) (元 内閣府大臣官房審議官)
	15:45~17:15	<b>Ⅴ. 修了講演</b> <b>② 「ヤマト運輸の成長戦略」 ~地域で一番身近で、一番愛される企業を目指して~</b> 1. ヤマトグループの概要 2. ヤマトグループ中期経営計画 3. 働き方改革の新たな取り組み 4. 地域課題解決の取り組み 5. 物流プラットフォームに向けたネットワーク構造改革への取り組み 6. 次世代物流への取り組み ----- 2019年に創業100周年という節目を迎えるヤマト運輸は2011年1月に「DAN-TOTSU 経営計画2019」を発表し、「アジアNO.1の流通・生活支援ソリューションプロバイダー」を目指すとしている。宅配便ビジネスの開拓者であるヤマト運輸は経営計画の中で新規事業の創出を打ち出しており、宅急便などのデリバリー事業以外の営業利益構成比を50%超とする目標を掲げている。主力事業の競争激化に伴う価格競争や新規事業の育成という課題を多くの日本企業が抱える中、ヤマト運輸はこうした問題にどのように対処するのだろうか。ヤマト運輸が現在、取り組んでおられる活動(働き方改革の新たな取り組み)も含めて、その取り組みを紐解くことで、更なる日本企業飛躍の条件を探る。	ヤマト運輸(株) 代表取締役専務執行役員 <b>栗栖 利蔵 氏</b>
	17:20~18:20 18:30~19:30	修了立食懇親会 修了式及び交流会	

◆第14期 BRI 経営塾修了者の声



新日鐵住金(株) 技術開発本部 製鋼研究部部長

**加藤 徹 氏**

第14期BRI経営塾に参加して

第14期BRI経営塾は日常の喧騒から少し離れ、秋の穏やかな海原を望む熱海での合宿に始まりました。「世界経済の長期展望と日本の経済成長・財政危機」「中国経済の行方」の講義で現状認識を学んだ上で、未来の日本及び世界の姿を予想するとともに、日本の再生の道を探るため、業界も職務も異なる塾生とグループ討議に取り組み、日頃とは異なる思考を巡らせました。

その後も4カ月にわたり、危機的な経営状況からV字回復を果たした日立製作所、商品需要の大幅減少を克服した富士フィルム、Watsonの展開を進める日本IBM、水素社会実現に取り組む岩谷産業など時代の鍵となる内容を講演いただき、アンテナを高く社会の動向を見ることがマネジメントに活かすことの大切さを強く感じました。トランプ大統領誕生や、「BREXIT」に象徴される世界的な急激な変化の時期に受講し、従来の延長が安心や成長につながらないと感じる中で非常に貴重な機会でした。今後は講師や塾生の皆様との繋がりも活かし、広い視野を持って業務に励んでいきたいと思います。

## ◆ 一般社団法人企業研究会のプロフィール

当会は昭和23年5月、敗戦後の混乱と荒廃の真只中に、当時の有力鉄鋼メーカー中堅幹部(主に経理部門)を中心として、数人の学者及び経済安定本部調査課の人々からなるインフォーマルな研究懇談会が開かれました。その後、自動車、造船、紡績、製紙工場等のメーカーの有志も加わってくる中で一定の事務局機構をもつフォーマルな会員相互の研究機関への構想が打ち出され、同年12月7日、経済安定本部長官邸で正式名称を「企業研究会」として創立総会が開催されました。

当初、任意団体として発足した本会も研究活動の活性化と会員の増加と共に並行し、昭和31年3月31日、通産大臣認可の社団法人に組織替えがおこなわれ現在に至っております。

本年69年目を迎えておりますが、発足時から受け継がれた産・学・官共同による地道な実践プログラム、さらに出版・編集活動などにみられるとおり、ますます強化され、比類なき研究機関として期待を集め、それを中心として多様かつ広範な活動が展開されています。

当会歩みは戦後の経済成長を達成し、近年の国際経済・福祉社会の発展を担う企業の役割と軌を一つにしているものといえましょう。さらに当会は2011年4月、一般社団法人移行を機に存在感ある信頼される経営団体を目指し、今後とも鋭意努力して参る所存です。

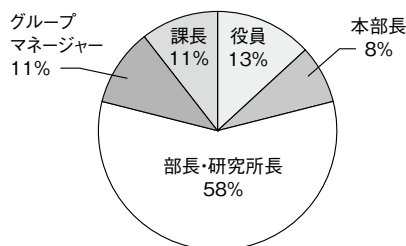
### 当会役員

会 長	小枝 至	日産自動車(株) 相談役
副 会 長	有馬 利男	一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 代表理事
	伊藤 一郎	旭化成(株) 取締役会長
	葛岡 利明	(株)日立製作所 代表執行役執行役専務
副会長・専務理事	石山 進	一般社団法人企業研究会
理 事	榮 敏治	新日鐵住金(株) 代表取締役副社長
	鈴木 洋	HOYA(株) 代表執行役最高経営責任者
	津田 晃	(株)西島製作所 社外取締役
	広瀬 道明	東京ガス(株) 代表取締役社長
	内田 幸伯	一般社団法人 企業研究会(常勤)
	池田 朋之	一般社団法人企業研究会 事務局長(常勤)
監 事	谷口 昌己	公認会計士
	森田 和一	パナソニック(株) 客員

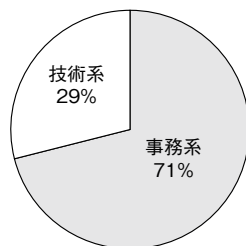
### 【第10～14期 直近5年参加企業一覧】

旭化成(株)/イオンモール(株)/エムネクスト(株)/(株)エスアールエル/花王(株)/キューピー(株)/(株)サガミチェーン/新日鐵住金(株)/セイコーウォッチ(株)/(株)ソルベックス/(株)大気社/東京ガス(株)/(株)東芝/日産自動車(株)/日本電気(株)/野村不動産(株)/野村不動産アーバンネット(株)/野村不動産ホールディングス(株)/日立キャピタルサービス(株)/日立キャピタル損害保険(株)/日立キャピタル(株)/(株)PFU/富士ゼロックス(株)/富士レボオ(株)/三菱化学エンジニアリング(株)/三菱商事(株)/みらかホールディングス(株)/(株)ミロク情報サービス/横河ソリューションズ(株)

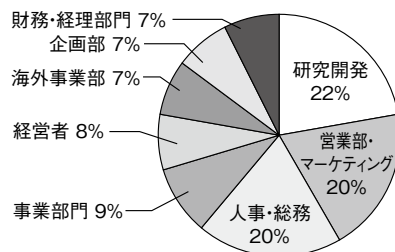
#### 【直近5年：役職別参加一覧】



#### 【直近5年：分野別区分】



#### 【直近5年：部署別参加一覧】



## ◆ 開催会場案内

《合宿研究会会場》

■ 神奈川：熱海  
ホテルニューアカオ



〒413-8555 熱海市熱海1993-65  
TEL. 0557(82)5151

■ JRご利用の場合

東京方面より東京～熱海(新幹線利用で約50分)  
名古屋方面より名古屋～熱海(新幹線利用で約2時間)

バス 熱海駅よりシャトルバスが送迎致します。

■ 神奈川：横浜  
東京ガス(株)扇島工場  
LNG(液化天然ガス)タンク



神奈川県横浜市鶴見区扇島4-1  
TEL. 044(287)2181

■ 東京：表参道  
アイビーホール



東京都渋谷区渋谷4-4-25  
TEL. 03(3409)8181

銀座線・半蔵門線・千代田線下車  
表参道駅下車 (B3出口より徒歩5分)

## ◆ 参加要領

1. 申込先：一般社団法人 企業研究会 第2研究事業グループ  
〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 麹町M-SQUARE 2F  
電話 03(5215)3550 FAX. 03(5215)0951~2

2. 受講対象者：取締役並びに執行役員(上級部長を含む)

3. 受講料：1名	正会員	432,000円 (本体価格：400,000円)
	一般	486,000円 (本体価格：450,000円)

(資料・昼食代・合宿費・懇親会費等の一切を含みます。)

4. 会場：ホテルニューアカオ (合宿会場)  
神奈川県熱海市熱海 1993-65 TEL. 0557 (82) 5151 <http://www.i-akao.com/newakao/>  
アイビーホール  
東京都渋谷区渋谷 4-4-25 TEL. 03 (3409) 8181 <http://www.ivyhall.jp/>  
東京ガス(株) 扇島工場  
神奈川県横浜市鶴見区扇島 4-1 TEL. 044 (287) 2181 <http://www.tokyo-gas.co.jp>

5. お知らせ：・電話でも受け付けますが申込用紙は必ず郵送又はFAXにてお送り下さい。 FAX 03(5215)0951~2  
・FAXでお申込みの際「0(ゼロ)発信のFAX機」をご利用の場合は、必ず、「0」を押してから、番号入力をお願い致します。(別番号への誤送信にご注意下さい。)  
・当会ホームページ(<https://www.bri.or.jp/>)からもお申込みいただけます。  
・受講料の払い戻しは原則としていたしません。  
・銀行送金の場合は会社名でお振込み下さい。  
・領収書を必要とされる場合はあらかじめご連絡下さい。  
※本コースは、事務局 福山が担当しております。お気軽にお問い合わせ下さい。

取引銀行  
三菱東京UFJ銀行 神田駅前支店 普通預金 No.0003369  
三菱東京UFJ銀行 神田支店 普通預金 No.42002  
三井住友銀行 東京公務部 普通預金 No.19205  
みずほ銀行 神田支店 普通預金 No.211983  
※口座名 一般社団法人 企業研究会

郵便振替口座  
東京00150-6-96032 一般社団法人 企業研究会

一般社団法人 企業研究会 御中

No. \_\_\_\_\_

2017年 月 日

## 「第15期 BRI経営塾」参加申込書

170047 - 0101

### 【ご参加者向け記述項目】

会社(事務所)		電話 ( )
所在地	〒	FAX ( )
部・課・役職名		
氏名	(ふりがな)	
E-メールアドレス		
専門分野	(例) 財務・経理・技術・研究開発・営業・総合戦略 etc.	
連絡担当者 (ご本人の場合は記入不要)	(会社名)	電話 ( )
	(住所) 〒	FAX ( )
	(部課役職名)	(氏名) (ふりがな)
	Eメールアドレス：	

### 【関係資料(受講票・請求書)の送付について】

(備考欄)

※該当項目に○印をご記入下さい。

連絡ご担当者宛て	受講票	請求書
参加者ご本人宛て	受講票	請求書

◆標記プログラムを受講いたしたく上記のように申し込みたいします。